

6月トリアだより

6月の活動



月	火	水	木	金	土
		1 屋外・手指 	2 音楽・絵画 スモック	3 運動 認知課題 	4 休み
6 感触・ルール スモック	7 屋外・手指 帽子	8 音楽・絵画 スモック	9 運動 【早降園日】	10 感触・ルール スモック	11 音楽
13 屋外・手指 帽子	14 制作(父の日) 音楽 スモック	15 運動 認知課題 	16 感触・ルール スモック	17 屋外・手指 帽子	18 休み
20 音楽・絵画 スモック	21 運動 認知課題 	22 感触・ルール スモック 【避難訓練・防犯】	23 屋外・手指 帽子	24 音楽 【早降園日】	25 屋外 帽子
27 運動 認知課題 	28 ルール お楽しみ会 	29 屋外・手指 帽子	30 音楽・絵画 スモック		

※専門職の来所予定日

公認心理師(松本):7日(火)、10日(金)
言語聴覚士(永山):20日(月)~22日(水)
24日(金)~28日(火)
理学療法士(樋口):14日(火)~17日(金)

~子育て相談会のスケジュール~

※3名の講師の中から1名が対応致します。
 ○水流 かおる (児童発達支援センター歩路 センター長)
 【担当日:7/19(火)】
 ○松本 みどり (社会福祉法人 落穂会 心理師)
 【担当日:6/8(水)、7/6(水)】
 ○永山 理香 (社会福祉法人 落穂会 言語聴覚士)
 【担当日:6/22(水)、7/13(水)】
 ・時間:①13時~、②14時~、③15時~、④16時~
 ※各回1名/45分程度・場所:マルヤガーデンズ 6F garden 6



・持ち物全てに記名をし、持たせて下さい。また、記名がない場合は事業所にて記名をさせていただきます。ご理解のほど
よろしくお願ひ致します。

※当日のキャンセル連絡は、9時15分までに連絡をお願い致します。9時15分以降の連絡になりますと昼食代(264円)が
発生します。

・活動時間確保の為、9時50分～10時15分までに登園下さい。10時15分までに登園されない際は、ご連絡させていただきます。

・降園時の引き継ぎを13時50分頃より開始しています。14時までに来所されない場合は、一度ご連絡させていただきます。

・下着(パンツ)の貸し出しがあった際は、未使用の物を返却して頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

・お子様のことで悩み事や困り事等ありましたらご相談下さい。コドモンや交換ノートを必要に応じてご活用下さい。

・トイレトレーニングを行っている方は、トレーニングセット(パンツ、スポン、Tシャツ、肌着、ビニール袋)を袋にまとめて準備をして
いただきますよう、お願ひ致します。

・着替えた衣類を入れる袋を、必ず持たせて下さい。(スーパーのビニール袋等で構いません。)



○ご存知ですか?デフバスケットボール

皆さん、こんにちは。じめじめした日が増えていますが、どのようにお過ごしでしょうか。軽く身体を動かすことでスッキリすることもあるかもしれません。今回のコラムではデフバスケットボールと、デフバスケットボール選手の津屋一球(つやかずま)さんを紹介したいと思います。

私は数年前にたまたまプロバスケットボールの試合を観て、すっかりバスケットボールファンになりました。選手たちの力強く軽やかなプレーはとても爽快で、あんな風に動けたらどんなに気持ちがいいだろうと思います。

ある試合で、私の応援しているチームが相手チームの新人選手に20点近くとられてしまったことがありました。三遠ネオフェニックスの津屋一球さんです。ルーキーなのにすごい!と印象に残っていたのですが、後日のインタビューで津屋さんには聴覚障がいがあり、三遠ネオフェニックスの他にデフバスケットボールのチームに所属していると知りました。

デフバスケットボールは聴覚障がいの者のバスケットボールで、デフ(deaf)は英語で聞こえない人、聞こえにくい人を意味します。同じ障がい者スポーツの車椅子バスケットボールなどに比べ、認知度はまだ低いようです。補聴器を外してプレーするという決まりと、笛やブザーに加えて旗でも合図をすることのほかは、一般のバスケットボールと同じルールです。

補聴器なしではほとんど聞こえないという津屋さんは、幼い頃から「耳に何かつけているのは自分だけだ」と疎外感を覚えていたようです。学生時代にデフバスケットボールと出会い、「ぼくだけじゃないんだ」と感じる事ができたと話されていました。現在は、バスケットボールとデフバスケットボールの両方で日本代表を目指し、聞こえない人たちの目標になりたいとデフバスケットボールの普及に取り組まれています。

音が聞こえない環境で良好なチームプレーを行うためには、足を鳴らして振動で知らせたり、目くばせやアイコンタクト、首の動き、指さしを使ったり、体全体でコミュニケーションをとるのだそうです。ことばを使わないコミュニケーションという点で、まだ話したことばを使えない子ども、ことばが伝わりにくい子どもとのコミュニケーションの取り方と重なる部分があり、特に伝わったかどうかを確認することの大切さに共感しました。

私たちは子どもたちと接するとき、どのような働きかけが伝わりやすいのかな?と考えながら接すること、身振りや絵カードなどを使う際には、注目しているかな?理解できているかな?と子どもの様子をよく見ること、遠くからや背後からではなくなるべく近づいて視線を合わせて話しかけることや、注意をひきつけてから話しかけることなどを心がけています。そうすることで、より伝わりやすく、子どもの反応や発信(笑顔や発声、動きなど)が増えることにつながると考えています。

もし働きかけ方、ことば掛けに迷うときには、ぜひ、お気軽に私たちにご相談ください。

言語聴覚士 仮上 桃子

